信州大学山岳会

積雪期山行報告書

1995.10 ～ 1996.3

わたしは、いつでも出発できる準備ができたので、知者の敵のことを彼に聞くことにした。……　彼は少しの間躊躇していたが、やがて話しはじめた。

「人は学びはじめの頃、自分の目的が決してはっきりしていないものだ。目的は不完全で意志はあいまいだ。学ぶことの辛苦をぜんぜん知らないから、決して物質化できない報酬を望むんだ。

彼は少しずつ学びはじめる―最初はほんの少しずつだ、それからたくさん学ぶようになる。そして彼の考えはすぐにくずれちまうんだ。彼の学ぶことは頭に描いたことも想像したこともないことなんだ、だから彼は恐れ始める。学ぶということは思ってもみなかったことなのさ。学ぶことのステップひとつひとつが新しい苦労なんだ。だから体験する恐怖も無慈悲にがんとしてつのりはじめる。彼の意志は戦場になるんだ。

こうして彼は第一の自然の敵に出会うんだ。それが恐怖だ！恐ろしく、油断もすきもない、打ち負かすことのむずかしい敵だ。あらゆるまがり角で、うろつき、待って隠れているんだ。もし人がそれと面と向って恐れて逃げだしたら、彼の探求に終止符がうたれるのさ」

「もし恐れて逃げ出したらどうなるんだい」

「二度と学ばなくなる以外には何も起らん。二度と知者にはなれんだろう。たぶんあばれ者とか、無害な俗物になるだろうよ。とにかく敗北者になるな。最初の敵は彼の望みを断っちまうのさ」

「恐怖に打ち勝つにはどうすればいいんだい」

「答えは簡単さ。逃げないことだ。恐怖なぞものともせずにつぎのステップへ進むんだ、それからつぎ、つぎへとな。きっと恐怖でいっぱいになるにちがいない、だが止まってはいかんのだ。これがルールだ！そうすればやがて第一の敵が引き下がる時が来る。人は自分自身に確信を感ずるようになる。彼の意志はさらに強くなる。学ぶことは決して恐れるようなことじゃないんだ。

このすばらしい瞬間がくれば、人はためらうことなく、おれは第一の自然の敵を打ち負かしたと言えるんだ」

引用文献　『呪術師と私　ドンファンの教え』
カルロス・カスタネダ　真崎義博 訳
1974　二見書房

もくじ

1. 北了　剱岳 及び 本峰南壁　P.1
2. 〃　槍ヶ岳 北鎌尾根　P.2
3. 中了　小黒川．将棋頭沢
4. 戸隠山
5. 南了　北～南縦走　P.P.2～4
6. 北了　穂高岳 屏風岩東壁ルンゼルート　P.5
7. 火打山　鍋倉谷遡行　P.6
8. 谷川岳 一ノ倉沢　衝立岩中央稜　P.7
9. 信州秋山郷．鳥甲山　P.8
10. 南了　甲斐駒ヶ岳～鋸岳　P.9
11. 頸城山塊　明星P6南壁　P.11
12. 富士山　P.12
13. 南ハッヶ岳　阿弥陀北稜
大同心南稜
赤岳主稜
石尊稜　P.13
14. 〃　中山尾根
小同心クラック
大同心南稜　P.14
15. 北了　霞沢岳 東尾根　P.14
16. 戸隠山．八方睨　P.15
17. 南ハッヶ岳西面 小同心クラック　P.17
18. 〃　中山尾根　P.17
19. 戸隠西岳　P5～P1 周辺　P.18
20. 南了　鳳凰三山～北岳　P.P.19～20
21. 北了　前穂北尾根　P.21
22. 戸隠西岳　P1尾根　P.22
23. 北了　燕岳　P.23
24. ハッヶ岳西面 石尊稜　P.24
及び ジョウゴ沢アイスクライミング
25. 南了　甲斐駒ヶ岳～鋸岳　P.25
26. ハッヶ岳西面 雲稜ルート　P.26
27. 南了　鋸岳 熊穴沢～中川乗越．
（回収山行）　P.26

リーダーの言葉　P.27

中止になった山行

1. 10/14～16　明星P6南壁
2. 12/16～18　中了　木曽駒．宝剣岳
3. 1/20～22　〃　木曽駒
4. 3/4～6　北ハッヶ岳 天狗岳東壁
右稜
5. 3/13～19　北了　明神岳南西尾根
～前穂高岳
6. 3/23～4/4　北了　涸沢岳西尾根
～奥穂～西穂．
7. 3/18～30　北了　剱岳 早月尾根

9月30日(土)～10月2日(月)　2＋1日予備日

北アルプス　剱岳　及び　本峰南壁

(L) 前原、徹(II)，長澤 徹哉(II)　(磯辺・小林は不参加)

9/30　4:30 松本発＝8:45 馬場島着 ／ 9:20 発◎ ～ 12:55 早月小屋着◎ 14:00発 ～15:05 2600m付近のピーク ① ここにツェルトを張る ～16:37 偵察へ◎ ～17:10 2800m付近まで散歩する◎ :25 発 ～17:55 ツェルトの場所着◎

前日総会があり、ほとんど眠れなかったため、2人とも調子がイマイチで早月の急登が地獄のようだった。今回の山行は訓練のためツェルトにシュラフカバーで寝ることにしたが、やはり少々寒かった。/25,000 地図では 2614mの標高点から本峰に向かった方のコルが幅も広く恰格のT.Sであるかのようだが、実際に見るとテント等張れそうにもない狭い場所だった。2614mの点より手前の細長いピークがT.Sになる。水は早月小屋で買うことができる。

10/1　6:10 T.S 発～8:10 本峰南壁A2ルート取付●～8:32 登はん開始● ～4ピッチ～10:20 ザイルピッチ終了● ～10:50 剱岳山頂● 11:07 発 ～12:05 T.S着● :20発◎～13:08 早月小屋◎ :40発 ～馬場島着 16:00頃

雨のなかの登はんは寒かった。ザイルも濡れで重くなるし実に憂うつだった。スキーのストックをツェルトの支柱にするため持って行ったが、下り道で杖として非常に重宝した。急な下り坂では杖があると便利だと知った。

10/2　予備日 未使用

・僕はいつか厳冬の剱の峰に立ちたいと思っている。早月尾根はその中では最も取りつき易い尾根であり、そのいつかのために今回はルートの下見をするつもりで入山した。雪の全く無い時期であっても下見は役立つと自分は思っている。さて、今回の山行についての反省だが、やはり登はんのスピードが遅い、登はん時のコールがされてない等、登はんについてが多い。夏合宿で学んだことがあまり活かされなく残念である。また天気が悪かったのが重ねて残念である。しかし、どんな状況であっても僕は剱岳が一番好きな山である。　(前原)

10/7～10 槍ヶ岳 北鎌尾根 L山内、原田(M) 長澤、岸、いとべ

7日 七倉ダム 7:00○ — 晴嵐荘 9:050 — 二俣 10:00○ — 千天出合 12:450
～北鎌沢出合T.S 15:300
渡しょうの連続。川に飛ばされた長澤のザックを岸がとびこんで救う。

8日 T.S 6:50◎～8:30 北鎌コル～9:30 1746m ～16:00 槍ヶ岳◎～
～17:00 松ノ肩T.S○

9日 T.S 6:00◎～7:00 南岳◎～8:30 大切戸◎～9:30 北穂高岳◎
～12:00 おくほ◎～14:30 前穂高岳～16:17 岳沢ヒュッテT.S◎

10日 6:15 T.S○～7:30 上高地○

独標は右へトラバースしてまいた。槍の穂先で雪がちらついてきた時はあせったが、すぐにやんだ。9日は下山パワーさくれつ。岳沢ヒュッテの水は1ℓ100円。

No.1

10月7日～10月12日（4+2日） 南アルプス 北～南 縦走

(L)前原(II)　　※ 10/12日未使用下山

10/6 → 伊那発～戸台大橋～北沢峠～北沢長衛小屋（移動日です）

10/7 → 4:07起～5:28 T.S発○～6:53 小仙丈岳○ 7:00発～7:28 仙丈岳山頂○
7:43発～7:58 大仙丈岳○～9:17 伊那荒倉岳○～10:14 横川岳○～10:43
西俣小屋○ :53発～11:42 左俣大滝◎ :53発～13:14 中白根沢ノ頭(2841m△)◎～
14:15 北岳山頂◎ :31発～15:23 中白峰(3055m) :35発◎～16:29 間ノ岳◎ :48発
～17:30 農鳥小屋◎

仙丈岳から見た北アルプスの雪化粧が美しかった。西俣小屋から左俣沿いに北岳に行くのだが、左俣はマーキングはっきりしない場所もあり、また完全にマーキングをたどるとかえって道が悪かったりするので、マーキングで方向を確認しながら、左俣のなかで最も歩きやすい部分を探しながら歩いた方が良いと思う。いずれにせよ、左俣大滝まで行けば、道ははっきりする。農鳥小屋では、テント場代を払うか、小屋に泊まるかすれば、水を無料で分けてくれる。
今日の行程は思った以上にきつかったので、農鳥小屋までしか進めなかった。しかも、小屋への到着時間が日暮れ直前という遅さだった。最初、自分のペースを無視して歩いた結果だと思う。

TO BE CONTENUED →

10/8 → 4:00起 ～ 5:00ぐらいから 断続的に冷たい雨が降っていたので停滞することにする。
夕方から雨があがった。食料の分荷物が軽くなって少し嬉しい。

10/9 → 3:30起 ～ 5:10 T.S発 ◎～ 5:30 西農鳥岳◎～ 5:54 農鳥岳◎ 6:07発 ～ 6:42
T.S着・テント撤収・7:00発◎～ 7:48 三国平◎ :58発～ 8:10 熊ノ平小屋◎ ～ 9:45
北荒川岳◎ :48発 ～ 11:08 塩見岳東峰◎ :26西峰発◎～ 12:54 本谷山◎ :56発
～ 13:17 三伏小屋◎ :30発～ 14:03 烏帽子岳◎ ～ 15:05 小河内岳 :12発◎～ 16:43
高山裏小屋◎

西農鳥から農鳥、間ノ岳のトラバース道等 近いと思っていたら意外に遠かった場所が多かった。三伏小屋は実にすっきりした所にあり 水も豊富にあったので、よっぽど泊まろうかと思った。小河内岳の避難小屋も実に良い場所にあり、秋の青空に白い三角屋根が良く映えていたので、1度泊まってみたいと思った。但しこの小屋に水場は無い。高山裏小屋は冬期用に小屋が開放してあったので、小屋内にテントが張れたので、そんなに寒い目に遭わなくて済んだ。この小屋の水場は5～6分東側に下った所にあるが、水を汲んだ帰りがはっきり言ってだるい。
この日、コース上に存在した小屋で営業していたのは農鳥小屋だけであった。他の小屋は冬期用に開放してある。

10/10 → 3:30起 ～ 5:14 T.S発○ ～ 7:10 中岳山頂○ ～ 7:22 中岳避難小屋○ :34発
～ 8:04 悪沢岳○ :15発 ～ 8:45 小屋○ :55発～ 9:25 荒川小屋◎ ～ 9:47
大聖寺平○ :58発 ～ 10:59 赤石岳山頂◎ 11:17発 ～ 12:40 百間洞露営地◎ ～
13:33 大沢岳◎ :39発 ～ 14:00 中盛丸山◎ ～ 14:31 水場のコル◎～ 15:16 兎岳◎ ～
17:20 兎岳避難小屋◎～ 16:21 聖岳山頂○ :40発 ～ 17:11 蓊沢の分岐◎～ 17:45 ヘッド
ライト行動～ 18:25 廃屋の造林小屋 ～ 18:42 西沢渡 T.S

この日も天気がとても良かった。しかし、赤石岳辺りぐらいから雲が出始め、大沢岳からの稜線ではガスのなかに入ってしまい何も見えない状態が続いた。ただ最後の3000m峰である聖岳の山頂に着いたとき、偶然にも雲の上に出て、晴れていたのには感動した。時間に追われ、急いで歩き続けて疲れていただけに嬉しかった。
登山道についてだが、荒川小屋のところで1/25000地図ではトラバースで小屋に寄らずに歩けるよう記されているが、実際はこのトラバース道は無かった。旧百間洞山ノ家跡から大沢岳と中盛丸山の鞍部に出る道は廃道とガイドブックに記述があるが、百間洞の沢の水を使用しなければ通行可と立て札があった。小屋から汚水が出るためだと思うが、通行する人も少なそうなので、荒れた道になっているのではないだろうか。兎岳手前の水場はそれと分かりやすいようにマーキングされているが、急斜面を下って水汲みに行かねばならないので帰りが辛い。ここのコルにもテントが張れるスペースがある。聖岳から聖平に向かってジグザグ道を下りきった位のところの右手に水が少し流れており、付近にテントを張った跡もあった。廃屋の小屋は中に入って泊まることもできそうだったがとても不気味で近くに幕営するのさえ嫌だった。西沢渡付近では西沢を便ヶ島の方へ渡った方に広い平地がある。水は豊富に流れていた。

10/11 → 3:53起 ～ 5:25発○ ～ 6:17 便ヶ島登山小屋○ ～ 7:27 弁天岩○：35発 ～ 8:04 北又渡○ ～ 8:39 加々良渡○ ～ 9:42 本谷口バス停○

朝、渡渉点が分かりにくかったので明るくなるのを待って出発した。どこからでも渡ることはできるのだが、その後、登山道を探さねばならないことを考えると砂防ダムのすぐ下の固定ロープ沿いに渡るのが良いと思う。渡渉した後も絶対に河原沿いに下ってはならない。この後は昔の森林軌道跡に沿って歩いて行くのだが、所々崩壊しており、その巻き道があったりするが、絶対に下の河原まで降りてはいけない。何本もケモノ道が河原に向かって降りており、自分自身迷い込んで苦労した。1/25000地図を頼りにすれば大丈夫である。長い長い林道歩きだった。本谷口のバス停は林道から国道の方へ橋を渡ったすぐにある。

反省と感想

秋という日の短い時期なだけに時間的に苦しい場合が多かった。夏ならもっと行動できるのにと思いながら行動を打ち切る毎日だった。ただ初日だけは自分のペースを考えないで走ったりしたので予想以上に疲れてしまった。8日、雨の日完全に停滞にしたのはその後の好天ぶりを見ても好判断だったと思う。冷たい雨に濡れるのは吹雪より始末が悪いと考えられるし…。10日、時間の都合と晴れていないことから奥聖岳に行けなかったのは残念だった。この日、どうしても下まで降りたくて、強引にヘッドラン行動をしたのだが、水も持ち合わせていたのでいつでもビバークできるという強みがあったからだ。しかし、かなり慎重に踏み跡探しをしながら歩かねばならず非常に時間がかかった。二度とこのようなことはしたくないし、やってはならないことだと思う。

短期間で南アの3000mピークを全て登りきり、時間の節約もでき、とても充実した山行だった。

「力モシ力のように」

10月10－11日（1+1）穂高岳屏風岩東壁ルンゼルート

L. 伊藤・中島佳範（長岡技術大学）

10日 2:30 松本 ＝① 4:00 坂巻温泉 ―① 5:00 上高地 ―① 5:55～6:30 横尾山荘
―8:00 T4取付 ―① 12:00 T3 ―① 15:30 上部4ピッチ目終了より下降
―16:30 T4尾根上部 ―① 17:00 T4取付 ―18:00 横尾 ―19:00 坂巻温泉

今どき東壁ルンゼ初えと言われてしまいそうだが、その東壁ルンゼへの3度目のアタックもまえなく敗退となってしまった。このところ中島さんとよく登りに行っている。彼は尊敬すべきクライマーで、前年に流さんとウォーカー稜やドリュ西壁アメリカンダイレクト等を登り、この夏にはヨセミテでノーズとハーフドームのしぎょうーールートを登ってきた人である。国内でもフリーはイレブン冬も宰猟でいろいろ登っているようです。そんな彼がこのルートを見上げた時に一言「汚たねー岩だ」「ボルトうざー」と言うより「リベットと同じだよこれじゃあ」「やっぱ人工はおもしろくない」と言ってくれたが、最後に一言「でもこのルートの初登者は尊敬するなあ。あの時代にこんなルートを登ったんだから。やっぱ昔の人は偉大だよ。」

坂巻から横尾までMTBで行き2時間掛り1時間で走った。でもギアを背負ってひたすら登り続けるのはそうとう根性がいる。腰がいたくなり、次の度も、もう少しでおけそうになった。ワンディで屏風はやってやれないことはないが、ものすごく疲れた。その分完登はできなかったが、充実感はあった。

T4尾根につき、ここより岩づたいに下りて行って下部岩壁を見上げると、1パーティだけ屏風に取り付いている。しかもこの東壁ルンゼルートの2ピッチ目で、さらに悪いことにどう見ても「昔は森のザイルで分けにかよったもんだ」と言いそうな中年絶りのおじさんクライマー3人で、その登はんスピードはおそろしいものだった。いきなり順番待ちまだ態になるのがわかってしまうと憂いがそがれてしまいそうだが、二人で気合いを入れなおして登はん開始。おじさん達が先に行かしてくれない。またビレイも2人同時に引き上げることをせず1人づつビレイしている。どうせ待たされるのなら、と、人工のフリー化をこころみたが、イレブンの世界なのであきらめた。3ピッチ目でT3へ。T3より見上げるルートははじめはかぶっていて、フリーだとV+～VI－なのだが、ハングを越え右にまわりこむ所がどうしてもこわくてA1してしまった。2ピッチ目A1。はじめリンゲのとれたおなじみボルトうざーをナッツを使い、落ちたら止まるか疑問を感じながら登る。少々時間とギアを使いすぎ、A2のルーフ（5-6m）のすぐ下でピッチをきる。でもくやしいので再びリードしてA2を乗越える。ルーフの真中にナイフブレードがささっていて、そこにぶら下がり（体がぐるぐる回る）身を乗り出して、ボルトにナッツをかけて、そのすぐ右にある幅狭いラープに乗って右のレッジへ。4ピッチ目は中島さんリードでA1とIII級ぐらいのフリーを登り時間切れで下降を開始。

横尾に着くと暗くて、直ぐMTBに乗り奇声を発しながら坂巻温泉へ。

この登はんは前日の寝不足（中島さんは長岡より徹夜で来た）アプローチの長さにもめげず完登こそできなかったが1日でなんとか登れ充実した。

1995年　10月14～15日　　火打山・鍋倉谷遡行

メンバー：L松本穂高、伴野達也（ＯＢ）、磯部和哉、小林茂幹

行動記録：

14日　松本－笹が峰11:05 ○～杉の沢橋12:05-12:20 ～ヒコサの滝12:40-14:00 高巻き～ＴＳ15:30 ○

15日　ＴＳ6:50○～Ｆ５10:30-11:15 ＴＲ～Ｆ６12:00 ～天狗の庭14:35-14:50 ①～～火打山15:20-15:40 ◎～天狗の庭16:10-16:20 ～笹が峰18:30 ◎－松本

ルート：

笹が峰から小谷温泉に抜ける林道は、７月の豪雨災害で通行不能。杉の沢橋まで歩くことになる。ヒコサの滝はすばらしく美しい滝だけど、直登はできそうもない。左岸からの高巻きは、つかむものもなく急なので、慣れていない人にとってはこわいかも。ゴルジュの後の河原では、どこでも幕営できる。途中、左から合流してくるソーベーオチ谷は分からなかった。それにしてもソーベーさんはかわいそうに。無事だったのか、みんなで心配した。その後、サクラ谷との出合いは水量が1:1 で迷うところだが、サクラ谷の方をしばらく行くと２ｍの滝が出てくるので、それと分かる。戻ろう。Ｆ５は左の壁を登るのがよいが、5.9 くらいあるので初心者にはザイルを出す。僕たちはＴＲで登ったが、ちょっと時間を食った。ここらへんからは美しいナメの連続で、感動。しばらく行くと、いよいよクライマックスのＦ６・７、そしてゴルジュ。Ｆ７は直登もできそうだが、左岸の草付きから巻ける。ヒコサの滝の場合もそうだが、高巻後の下降は、場所を見きわめないと崖っぷちの上に出てしまい、困るでしょう。最後のゴルジュは濡れないで行こうと思えばできるけど、せっかくだから泳いだりシャワーあびたりしたいところだ。そういえばあの２人はバランスを崩して釜に落ちてたっけ。楽しそうにあばれていたが、この寒さでは、うらやましいとは思わなかった。最後は苦しいやぶこぎもなく、源頭に広がる湿原に出る。しかしここは立入禁止になっていて、火打山に登る登山者に見られると、ぐちぐちいやみを言われる。自分は沢登りできないからねたんでいるんだ、と聞き流そう。しかし、やはり湿原を歩くのは、気が引ける。

感想：

お釜を泳いで壁に取り付いたり、滑り台をすべって水しぶきを上げて遊んだり、とても楽しかった。お釜があるたびに、キョエーウヒョーとかさけびながら飛び込んでいる某Ｋ君を見て、まさにサルだ、と確信した。

このへんの沢は、はっきり言ってマイナーなので、おたくっぽい人にはおすすめ。それにしても沢登りは、登山を楽しむというより、自然とたわむれるってのが目的のようだ。夜、たき火をじーっと見ている時、ふと幸せを感じた。昔、兼岩先輩という人が白神山地の沢に行って、「沢登りは自然とセックスすることだ」と言っていたが、僕はそういうお下品なことは言わないけれど、ふとその言葉が何年かぶりに思い浮かんだ。

（ほたか）

1995年　10月21日　　谷川岳一ノ倉沢　衝立岩中央稜登攀

メンバー：A松本穂高、小林茂幹、花谷泰広　　B山内哲文、磯部和哉、原田亮介

行動記録：ロープウエイ駅から少し上の小屋にて前泊

一ノ倉出合6:00○～中央稜取付8:00-9:00 衝立の頭13:20-13:40 ○～〈北稜懸垂下降〉～北稜末端16:50-17:10 ～略奪点経由一ノ倉出合18:30 ○

ルート：

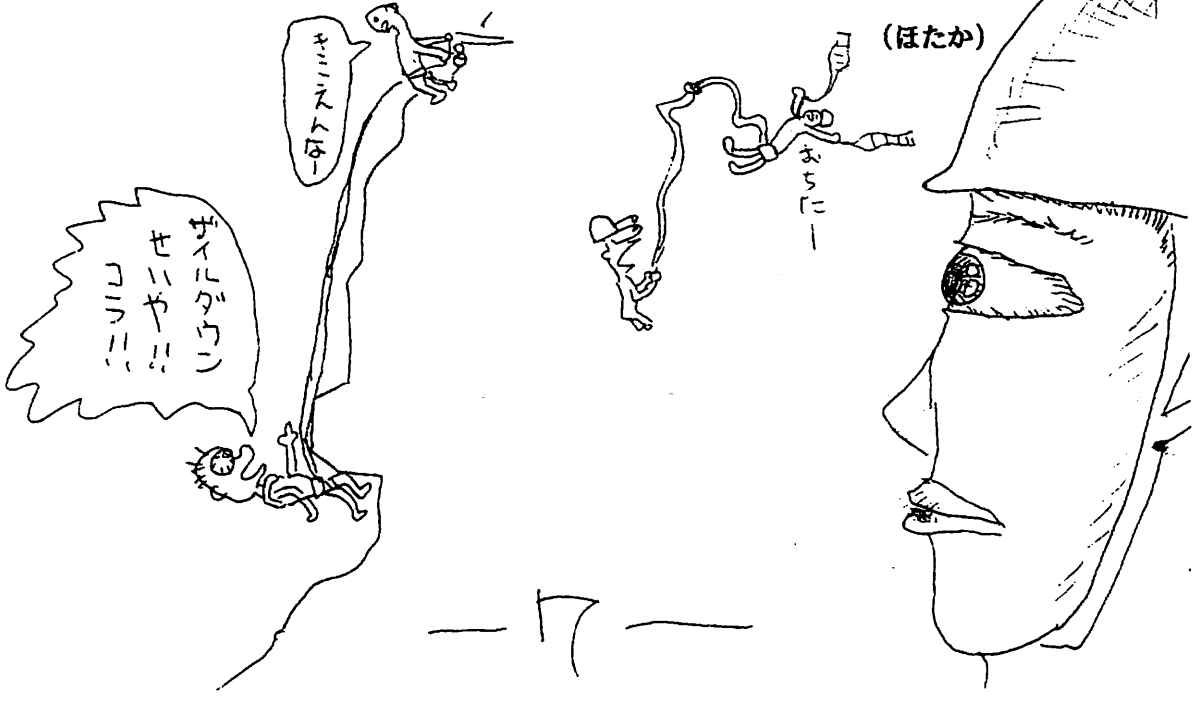
短くてやさしい人気ルート。順番待ちをさせられた。「日本の岩場・上」の記述通りに行くと、4P目の後半が核心で、手こずった。あとはどこもやさしく、問題ない。

衝立の頭からは、烏帽子尾根～一ノ倉尾根～国境稜線、中央稜下降、北稜下降のいずれかだが、国境稜線に出るにはザイルピッチが必要である。北稜は、6回のアプザイレンで終わる。今回は6人でぞろぞろやったので、やたらに時間がかかってしまった。

感想：

取付に着くと、いきなりすぐそばの上から大きな自然落石があり、まず面食らった。登攀中も、他パーティーが落とす落石の轟音が一ノ倉に響きわたり、「これじゃあ人がたくさん死ぬわけだ」と納得した。他にも、お互いのコールが聞こえず、やけになっているパーティーや、リードが10mほど落ちたにもかかわらず、平然と登攀を続けているパーティーなど、いろんな人がいてなかなか楽しませてもらった。ルート自体はだいたい簡単で、ちょっと物足りない気もしたが、上からの落石や高度感がめっぷう、メリハリはあった。1年生たちは歌を歌ったり写真を撮ったりして、とても楽しそうだった。

（ほたか）



1995年　10月22日　　信州秋山郷・鳥甲山

メンバー：松本穂高、山内哲文、小林茂幹、原田亮介、花谷泰広

行動記録：小赤沢集落にて前泊

屋敷8:20①～赤くら9:50～鳥甲山11:00-12:10 ①～和山14:50 ①

ルート：

ハイキングコースって感じ。でも子供連れのファミリーにはちょっと長いかも。山頂から和山へのルートは、所々鎖場も出てくるが、全く問題ない。切り立った岩壁とブナの原生林が美しい、ひっそりした山です。

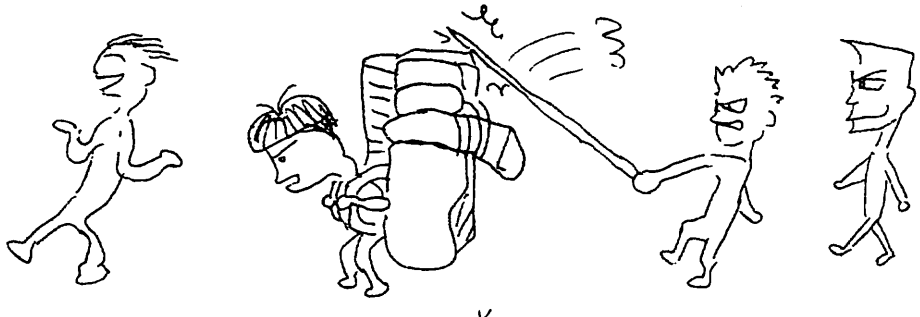
感想：

山頂で、東京から来たおばさんたち一行に会い、おむすびもらうは、おかずもらうはで、もうもてもて。これも俺がいるからかとにやける。

山頂でのＵＮＯに負けた某りょうすけ氏は、裸で河原の温泉を掘るか、全員の荷物を持って下山するか、の選択を迫られ、後者を選ぶ。るんるん気分でサザエさんなど歌っている４人とは対照的に、汗だくになってあえいでいる彼は、みじめだった。１ピッチでかんべんしてやるも、後で後悔する。

下山後すぐに切明温泉に行く。ここは、河原を掘れば温泉が湧いてくるところで、魚野川の清流のそのすぐわきで、湯に温まりながら、紅葉の谷に囲まれ、水着のお姉さんを眺めながらビールを飲む。幸せとしか言いようがなかった。

（ほたか）



カントリーロード　この道　ふるさとへ　つづいても
僕はいかないさ
いけない　カントリーロード

11月3日(金)～11月6日(月)　2+2日

南アルプス・甲斐駒ヶ岳～鋸岳

(L)前原 徹、長澤 徹哉

11/3　4:20起床～6:00 T.S発○～6:07 竹宇駒ヶ岳神社○～7:40 粥餅石○ 8:01発～8:50 1881mP直下○ 9:01発～9:17 刃渡り○～10:20 五合小屋○～11:02 七合第一,第二小屋○ :36発～12:20 御来迎場○ :37発～13:41 甲斐駒ヶ岳山頂○ 14:32発～15:28 六合石室◎風

11/4　4:30起床～5:58 T.S発①風～7:23 中川乗越◎風 :35発～7:55 大ギャップへの踏分の分岐◎～8:00 甲州側より大ギャップの底に近付く～8:08 分岐◎～8:17 第二高点①風 :36発～9:33 小ギャップの底①～9:46 第一高点① 10:30発～10:48 角兵衛沢のコル①～12:05 角兵衛の岩小屋○ :24発～13:12 河原○ :38発～15:20 戸台大橋のバス停～16:35 仙流荘○

11/5、11/6　予備日 未使用

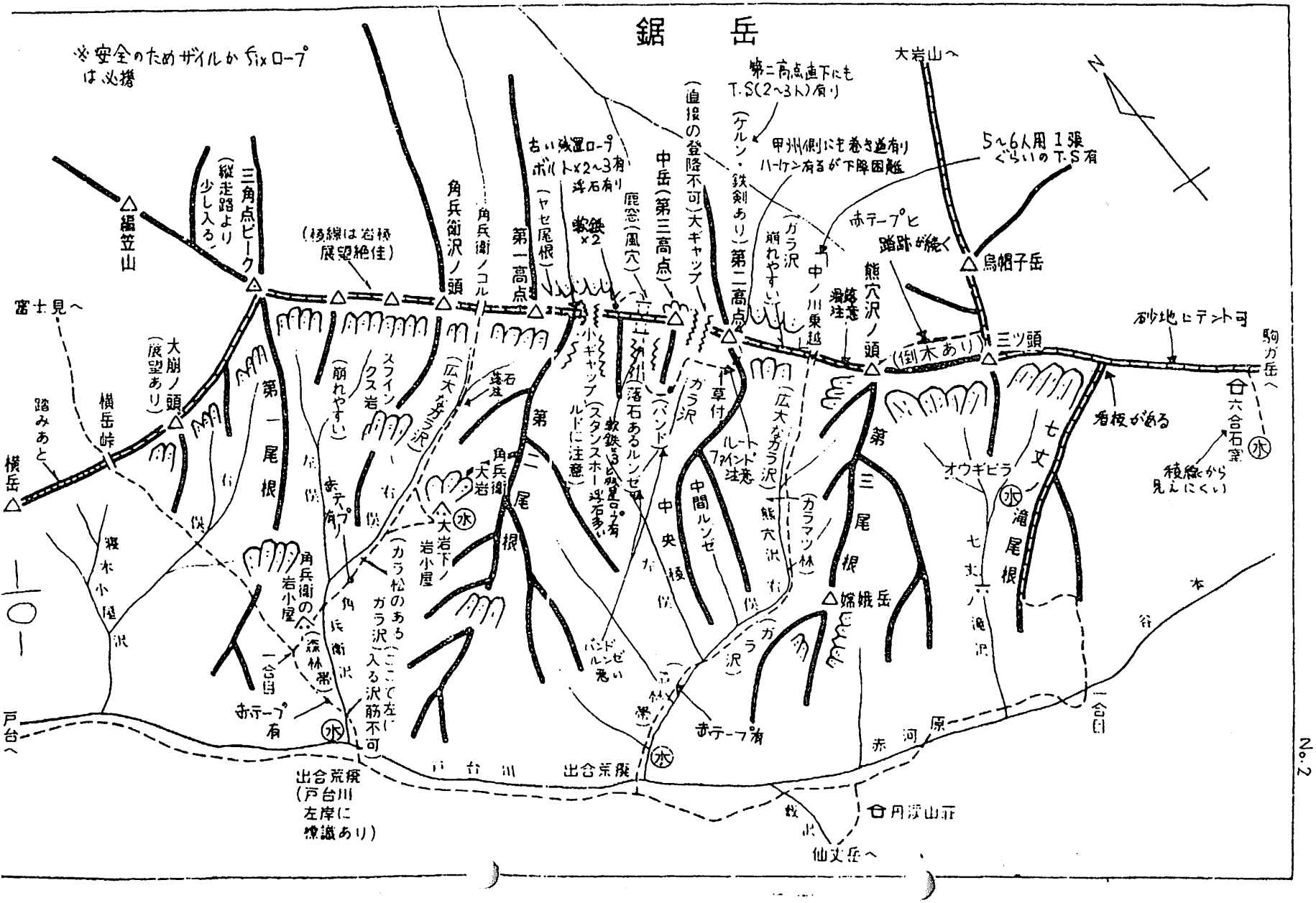
黒戸尾根はとにかく長い尾根で、重荷であれば1日で山頂に立つのは辛いと思われる。特に五合目以降のはしご、鎖場の連続で疲れる。道は明瞭で危険箇所にはいずれも鎖などがあるので問題ない。水場は竹宇駒ヶ岳神社、粥餅石、七合小屋にある。但し、時期が悪いのか粥餅石の水は少なく、小屋は冬期休業のため、水は無かった。小屋は五合小屋と七合第二小屋が開放してあった。

山頂から六合石室までで1ヶ所だけ信州側をクライムダウンする所があるが、冬は懸垂した方が良いだろう。後は稜線上をたどれば良いだけで特に問題ないと思う。石室は内部に5～6人用テントが2張くらいだと思う。水場はこの時期でも一部凍っていただけで流れていた。

ここから鋸岳までは付図を参照してもらいたい。特にルートファインディングが難しい場所は無く、落石にさえ注意すれば初級の岩登りの知識で楽しめる山だと思う。また赤テープも有り、踏み跡をたどるのに慣れていない人も大丈夫だと思う。かん木、ハーケン等もあるので安全のためにザイルを出したときも支点に困ることは少ないだろう。角兵衛沢の下りはひどいガレ場で落石注意。左右の尾根やルンゼからも自然落石があった。下部の樹林も踏み跡、赤テープともに十分だった。大岩下の岩小屋は2人用くらいの小テントならば4～5張程度大丈夫だが大きなテントは岩がボコボコの場所なのであまり向かない。水は少量だがある。(岩をしたたっている)

この時期に標高2000m以上の山に入山するのは初めてであり、装備等の選択に考えさせられた。今回、プラスチックブーツからピッケル等、冬山の装備を全て持って行ったが、使うことなくただのおもりになってしまったのだが、万一の悪天のことを考えると正しい判断だったと思う。また水についてだが、六合石室で水があったから良かったものの時期的に「水場は凍るが雪は無い」状態のため、石室に着いたときには2ℓ程度しか手持ちが無く、非常にまずいことになってしまった。水の確保についてももっと注意すべきだったと反省している。

冬の偵察のために入山したのだが、とても楽しい山行だった。冬に来るのが楽しみである。　(前原)


鋸岳
※安全のためザイルかFixロープは必携
編笠山
三角点ピーク
(縦走路より少し入る)
(稜線は岩稜展望絶佳)
角兵衛沢ノ頭
角兵衛ノコル
古い残置ロープ
ボルト×2~3有
浮石有り
第一高点
(ヤセ尾根)
鹿窓(風穴)
鎖鉄×2
中岳(第三高点)
(直接の登降不可)大ギャップ
第二高点
第二高点直下にも
T.S(2~3人)有り
(ケルン・鉄剣あり)
甲州側にも巻き道有り
ハーケン有るが下降困難
(ガラ沢崩れやすい)
中ノ川乗越
赤テープと
踏跡が続く
5~6人用1張
ぐらいのT.S有
大岩山へ
烏帽子岳
熊穴沢ノ頭
(倒木あり)
三ツ頭
砂地にテント可
駒ガ岳へ
六合石室
稜線から見えにくい
看板がある
富士見へ
大崩ノ頭
(展望あり)
横岳峠
踏みあと
横岳
第一尾根
スラインクス岩
(崩れやすい)
(広大なガラ沢)
石落注
第二尾根
角兵衛大岩
大岩下ノ岩小屋
(カラ松のあるガラ沢)入る沢筋不可
角兵衛の岩小屋
(森林帯)
赤テープ有
角兵衛沢
寝木小屋沢
一合目
戸台へ
小ギャップ
(スタンスホールドに注意)
鎖鉄×3 鎖量ロ有
浮石多い
(落石あるルンゼ)
(バンド)
バンドルンゼ悪い
(森林帯)
赤テープ有
カラ沢
草付
ルート・ファインド注意
中間ルンゼ
中央稜
熊穴沢
(カラマツ林)
(広大なガラ沢)
第三尾根
嬬恋岳
滑落注意
七丈ノ滝尾根
七丈ノ滝沢
オウギビラ
本谷
赤河原
一合目
戸台川
出合荒廃
(戸台川左岸に標識あり)
出合荒廃
円源山荒
仙丈岳へ
No.2

11月4～6日(2+1) 頸城山塊・明星P6南壁

クイーンズウェイ・フリースピリッツ

L. 伊藤・藤田和則（スキー山岳部）

4日 3:20松本 ●6:30～7:30明神展望台駐車場 ◎8:30クイーンズウェイ取付
－●弱13:00 4ピッチ目終了にて雨のため下降開始 － ◎14:00取付 －●15:00駐車場

5日 7:00松本 －◎8:30フリースピリッツ取付 －◎13:00中央バンドより下降開始
－14:00取付－14:30駐車場－松本

藤田はスキー山岳部で学部の後輩。前日にOB会があり、寝不足のまま出発。途中小谷村の土石流跡はこわかった。雨がしとしと降っていて、夜が明ける頃に岩を見ればびしょびしょであった。溶渓にとまどいながら、ぬれた岩を登るかまよいながら結局取り付いてしまった。2ピッチ目のナインマイナスははっきり言って泣きそうだった。ぬれた岩でつりークライミングすることはなんて無謀なんでしょう。キャメDotとバカづをきめて落ちても大丈夫と言いきかせながら1時間かけて登る。2ピッチかかったクラック、そしてトラバース。だんだん日が出ると岩も乾いてきて、いつの間にかとなりのマニフェストにんが取り付いていた。3ピッチ目藤田リード（ルート図では2ピッチ分）下部城さいの凹角下にトラバースして凹角へ。キャメDotがよくきく。クラックの少し奥を登るとガバがあってこわくない。V級もないような気がした。4ピッチ目どうして雨が再び降って来たので迷わず下降。中央バンドより落石がたくさんある。

次の日、フリースピリッツへ。はじめの2ピッチは草付なのでクレッターの派を落としながら登る。フリクションはぜひに欲しい。3ピッチ目VI－。CMCの人が先行していてルートファインディングは問題ない。ホールきってレイバックしてなんなく越える。高度感が快感に変わる。4ピッチ目V・A0。例の3段ぼし岩のトラバース。藤田リード。トラバースもこわいがうめぼし岩のハングしたもろいボロボロのチムニーは最悪。リードしなくてよかったと思った。5ピッチ目VI。かぶったクラックをレイバックでこえ右に回りこむ所でちょうどいいホールドがあり、欠けないかおそるおそるつかむ。右にレッジがあったが、そのまま直登し、細い木2本でビレイ。6ピッチ目V級。藤田リード。クラックの2本入ったハングの左に行かねばならぬ所を右に行ってしまい、ボロボロの岩を登り（大きな落石があった）中央バンドへ。ここより下降開始。今回も完登ならず。

1995年　11月18～19日　　富士山（吉田口より）

メンバー：松本穂高、原田祐介、長澤徹哉、岸秀蔵、小林茂幹、磯部和哉、堺崇行

行動記録：

18日　松本5:30＝滝沢林道経由　佐藤小屋8:55○～八合目（ＢＣ）12:30 ○

19日　ＢＣ6:40○～山頂8:00-10:05○（お鉢廻り）～ＢＣ10:55-11:15 （撤収）

～佐藤小屋13:30 ○＝境川村の小林宅＝松本22:00

ルート：

例年より雪は早いということだった。滝沢林道はところどころ凍っていたが、佐藤小屋（五合目）までは行けた。初めから雪はあったが、七合目あたりからアイゼンをつけた。その上はずっと氷かクラストの世界だったが、不思議なくらい風がなく、結局登りではアンザイレンしなかった。ただ、やはり一回転んだら止まらないところだから、その点では、新人を連れていくのには慎重さが必要だ。下山は、夏道の下り専用の道を下りた。ＢＣまではコンテをしたが、この道は滑落の危険だけじゃなく落石の常襲地帯だから、その点でも注意を要する。実際かなり大きな落石を目の当たりにした。単調なジグザグ道なので飽きる。一番怖かったのは、山麓のある村で白い建物群を間近に見た時だった。

感想：

良い天気の中、山頂まで行けてよかった。僕は富士山登頂は４回目だったが、すばらしい眺めをゆっくり堪能できたのは初めてでうれしかった。帰りに小林君の実家でごちそうをいただいたのは感激した。すっごい料理が次々に出てきて、「こりゃまた行くしかない！」と思った。みんなで押しかけよう

（ほたか）

12月16－17日（2+0）南八ヶ岳・阿弥陀北稜・大同心南稜

L. 伊藤・山内・博多（部外者）前原・花谷・小林

16日　3:30松本－⊗6:00美濃戸口－⊗7:00美濃戸－○9:20赤岳鉱泉－○10:20中岳沢と尾根に上がる分岐－○11:00岩稜取付－◎14:00阿弥陀頂上－◎15:00行者小屋－◎15:45赤岳鉱泉

17日　5:00起床－8:00大同心南稜取付－◎11:15－ドームの肩－◎15:45ドームの頭－17:30赤岳鉱泉－18:30美濃戸

今年の冬はフリーに走ると言っていたが、結局冬壁にも行きたくなり、とりあえず八ヶ岳でトレーニングすることにした。

阿弥陀北稜の取付はトレースがあった。なかったらわかりにくいと思う。中岳沢からいきなり右の尾根に上がり、しばらく行くとまた右にトラバースして主稜線に出る。岩稜までは少々きれているが、木がたくさんありにくかった。岩稜は2ピッチで越える。むずかしくない。それより阿弥陀岳頂上より中岳沢までの下降に注意すべきだろう。（中高年のパーティがよく滑落する）中岳沢は雪はそれほどなく（深くて1m ほど）そのまま下りた。

南稜は自分にとってはじめての冬壁（入門）ルート。厚い手袋にアイゼンきしませて登る。大同心南稜の2ピッチ目は III+ でもこわく感じた。八ヶ岳の岩質がかわっているのと、残置が少なく、あっても見つけるのに苦労するのと、是をどうするかが問題だとはじめに感じた。

ドームの頭はんは人工にうつるまでのフリーがどうしてもできず時間がかかった。結局ボロボロ出ている岩にタイオフしてそれにA1して登った。右にまわりこんでまたフリーになる所があったが、もう少しだと無心になって一気に登った。フォローの山内は2人分の荷物でパンパンにしてあわだこだ苦しながらも時間がけで登ってきた。それでも今回は完登できた。次の課題はスピードだ。

12/16　赤岳主稜　L. 山内・花谷　11:30とりつき～6P～15:00赤岳頂上⊕～16:00赤岳鉱泉

とりつきは文三郎尾根の階段登りきった所から右下へトラバースして下部岩壁を右からとりついた。天気がよくて快適な登りだった。花谷はスピッチリードした。

1月12-14日(2+1) 南八ヶ岳・中山尾根、小同じクラック、大同じ南稜

L、伊藤・小林

11日 19:30 松本 ― 21:30 美濃戸

12日 5:30 起床 ― 07:00 出発 ― 09:00 赤岳鉱泉 ― 9:30 中山乗越 ― 10:40 中山尾根下部岩壁取付 ― 11:00 登りはじめ ― 13:00 下降開始 ― 15:00 取付 ― 15:30 中山乗越 ― 16:00 赤岳鉱泉

13日 6:00 起床 ― 07:00 出発 ― 08:00 南稜取付 ― 08:40 小同じクラック取付 ― 9:00 登りはじめ ― 11:45 終了 ― 12:10 大同じルンゼ下降し、大同じ南稜取付 ― 13:30 登りはじめ ― 14:30 ドームの肩、下降 ― 15:00 南稜取付 ― 15:40 赤岳鉱泉 ― 美濃戸 ― 松本

中山尾根はルートを間違えたので大きな凹角を登ってしまい2度ほど落ちたと思うぐらい磨滅の連続だった。残置も1本だけしか50mでなかった。小林は登っていいよのコールに「登れません」とコールしてきた。

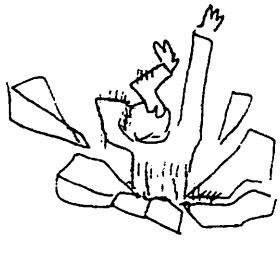
小同じクラックと南稜をリンディで登ることができた。小同じクラックは支点もしっかりして、オールド・スタンスも豊富で、しかも4ムニーなのであまり高度感も感じないではじめて行く人へのおすすめルート。

1/13～14 霞沢岳 東尾根 L山内、花谷、原田りょうすけ

13日 松本＝坂巻温泉 7:00発⊙ ― 8:18 東尾根とりつき① ― 9:45 稜先上へでる① ～ 11:30 1900m T.S → ていさつとラッセル → 14:00 T.S

14日 T.S発 6:25① ～ 霞沢岳 9:10着① 9:40発 ～ 11:00 T.S着① ～ 13:00① 林道 14:00 坂巻温泉

終動(高)の好天をついてアタックした。頂上直下の岩壁は五級もなく、ノーザイルでいけた。その前のナイフリッジの方がこわかった。尾根の下部は赤テープが豊富で恐れていたラッセルもさほどではなかった。肩すかしくったようだったが、しかし、岳人(クライマー)烈伝の舞台となった山をいけて楽しかった。



1月19日～1月20日 戸隠・八方睨

〔予定 1/19～1/22・3+1予備日〕

L. 前原 徹(II)、三木 隆一(無所属)

1/19 長野発＝8:22 駐車場発①～9:02 戸隠奥社①:15発～10:12より:52まで大休止～百間長屋手前のハング下でスタカットの準備 12:00発～4P～13:15 西窟◎:40発①～15:10 胸突き岩の手前をT.Sに決めてルート工作に出発～蟻ノ塔渡りの前まで偵察する～16:20 T.S着、テント設設⊙

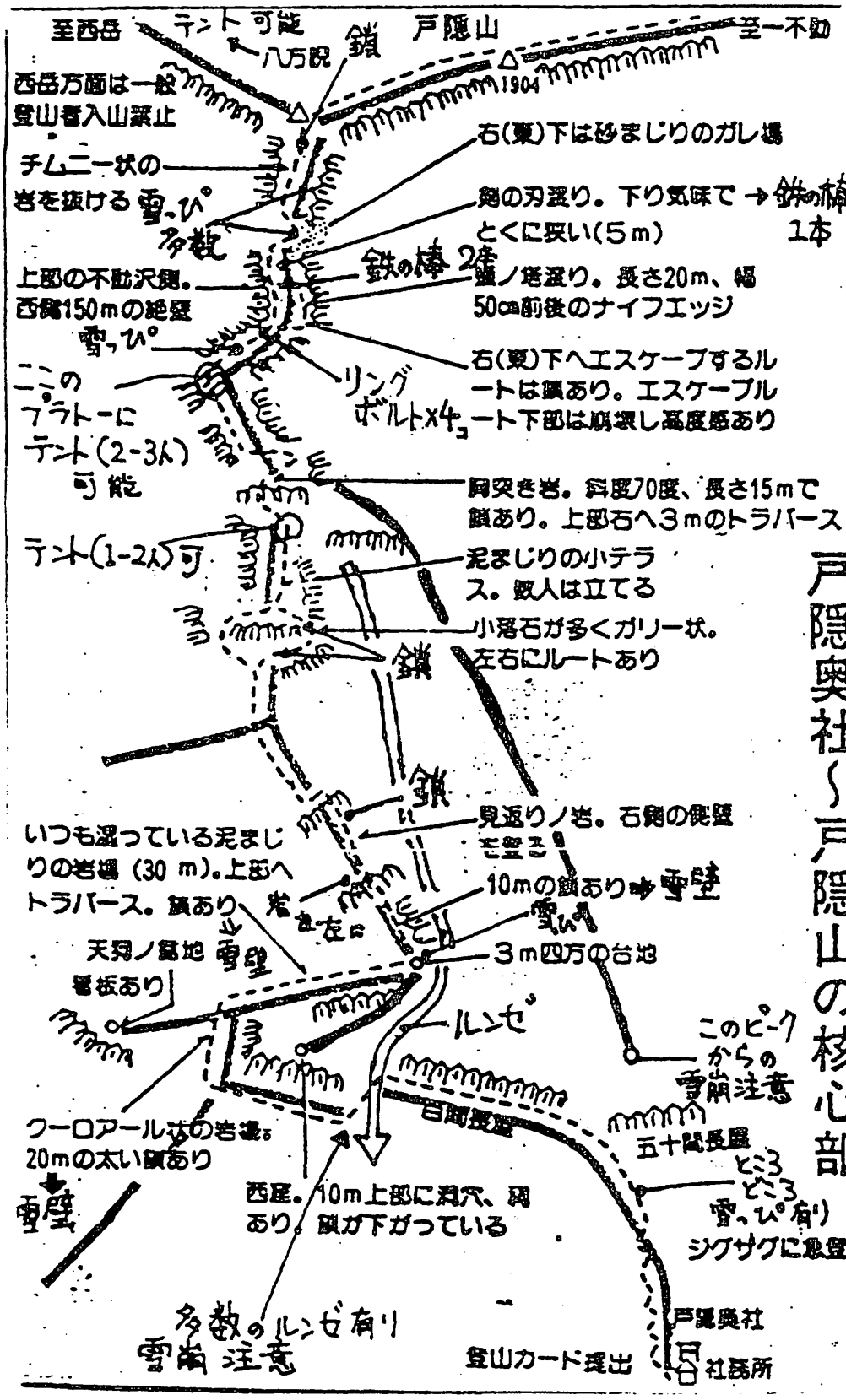
この日、晴れてとても暑かった。また奥社まではトレースはバッチリあった。百間長屋までも多少新雪で埋まってはいたがステップがはっきりとあった。少し前の降雨のせいか連日の晴天のせいかよく分からないが、かなり雪がしまっていた。しかし午後はアイゼンがダンゴになった。また、この設営の際にMSRの入ったスタッフバッグをすぐそばのルンゼに落としてしまい、翌日は撤退することにする。

1/20 5:45起床～8:00発⊙～けんすい 25m+25m～8:30西窟①～途中のルンゼを横断する際にMSRを発見。昨日ルンゼ内をすべり落ち、雪が腐っていたのでひっかかのだろう。回収して西窟に戻りテントを張って、ここからアタックする。9:55発①～10:15 胸つき岩付近よりスタカット～2P～10:55 蟻ノ塔渡り手前のプラトー① 11:15発～2P～剣の刃渡り手前～4P～13:20 八方睨◎ ― 14:00発⊛～14:04 スタカット開始～3P～15:05 プラトー⊛～15:30 胸突き岩上部よりけんすい 50m～けんすい 2P～16:20 西窟① テント撤収 17:02発～17:34 戸隠奥社～18:10 駐車場

撤退中にMSRを発見し、再北戦する。蟻ノ塔渡りまでは快調に進む。蟻の塔ではトップが雪を落として行けば後続の人はかなり早く進める。途中の鉄の棒か、その先の立木でピッチがきれる。また、雪の状態がよろしければ、東の沢側の岩壁沿いにトラバースできると思う。剣の刃渡りは騎乗で行ける。東の沢側がかなり雪で埋まっており、夏ほどの高度感はない。なお、プラトーから八方睨まで東の沢側に大なり小なり雪ぴが発達しているので要注意である。

連日通して天気がよろしく暑い位だった。しかし日の当たらない所ではかなりの寒さだ。1/19の大失敗をしなければ、本院岳方面に多小なりとも偵察に行けただけにまったく残念である。また今回はスコップを用いての大変なルート工作やラッセルの必要がほとんど無かただけに本来の戸隠らしさに欠けていたような気がする。後、安全のためボルトは必携である。ハーケンのきくような岩質ではないがボルトは大丈夫である。

そして今回、たいした資料もなく入山したのでよけいに時間を費したと思う。些少ながらルートをまとめたものを掲載する。しかし本来の多雪になればもちろん状況は一変し、非常に苦労することになるのを忘れてはいけないと思う。


戸隠奥社～戸隠山の核心部
至西岳
テント可能
八方脇
鎖
戸隠山
至一不動
1904
西岳方面は一般登山者入山禁止
チムニー状の岩を抜ける
雪っぴ多数
右(東)下は砂まじりのガレ場
剣の刃渡り。下り気味で→鉄の棒1本
とくに狭い(5m)
鉄の棒2本
上部の不動沢側。西側150mの絶壁
雪っぴ
盤ノ岳渡り。長さ20m、幅50cm前後のナイフエッジ
右(東)下へエスケープするルートは鎖あり。エスケープルート下部は崩壊し高度感あり
ここのプラトーにテント(2-3人)可能
リングボルトx4
胸突き岩。斜度70度、長さ15mで鎖あり。上部右へ3mのトラバース
テント(1-2人)可
泥まじりの小テラス。数人は立てる
小落石が多くガリー状。左右にルートあり
鎖
鎖
見返りノ岩。右側の側壁を登る
いつも濡っている泥まじりの岩場(30m)。上部へトラバース。鎖あり
岩
10mの鎖あり→雪壁
雪っぴ
天狗ノ腰地
雪壁
3m四方の台地
看板あり
ルンゼ
このピークからの雪崩注意
クーロアール状の岩場。20mの太い鎖あり
雪壁
五十間長廊
ところどころ雪っぴ有り
ジグザグに急登
西壁。10m上部に洞穴、岡あり。鎖が下がっている
多数のルンゼ有り
雪崩注意
戸隠奥社
登山カード提出
社務所

1月27－28日(1+1) 南八ヶ岳 中山尾根

L.伊藤・金井賢介（スキー山岳部）

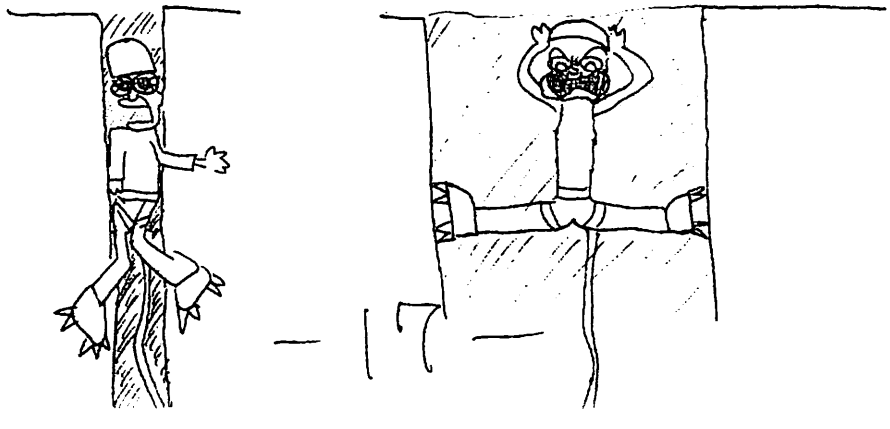
26日 19:00松本発 － 21:00美濃戸
27日 4:10起床 － 5:10出発 － 07:30赤岳鉱泉 － 8:30中山乗越 － 09:15中山尾根下部岩壁取付 － 09:45登りはじめ － 11:00下部終了 － 12:00上部岩壁取付 － 13:45登りはじめ － 14:45とさかナガ岩稜部 － 15:00縦走路 － 16:15行者小屋 － 18:30美濃戸 ＝ 松本

はじめの1ピッチ目はルート通りならはじめの所がこわいだけで何てことない凹角。2ピッチ目はかなり気味の凹角（1枚岩になっている）でAOしてしまった。そこから上部岩壁までは3ピッチ（50+50+10m）で雪と岩稜になっていて何てことない。上部岩壁は1ピッチで登れるのだが、はじめ凹角左のフェースはホールドがこまかく薄手の手強になって出られなかった。じょうご口の4m こ－がすぐありそこが核心なのだが、おばさん隊（ガイド2人とおばちゃん4人）がいて通らせてもらえなくて、左側のフレークをレイバックで越えた。再びとさかナガ岩稜までは（50m+30m）下部と同様なんてことなく、最部からはバンドをぐるっと回り縦走路へ。

1/27 八ヶ岳西面 横岳小同心クラックルート L.山内、前原、

美の戸口 6:24発 ～ 7:34赤岳鉱泉 07:55 ～ 8:50大同心 ～ 9:20小同心 9:55のぼりはじめ（1P 40m 11:050, 2P 40m 13:000, 3P 25m 13:150）終13:30 ～ 15:00横岳 015:15 ～ 16:16地蔵尾根下降 ～ 16:54赤岳鉱泉 017:12 ～ 17:50美の戸口

前穂北尾根におけての練習のつもりで行ったが、ちょっぴりこわかった核心部が。小同心の頭～横岳の間に1ヶ所ノーザイルではこわい所があったのでザイルをだした。前原は「のぼれる気しねー」と不言いながらものぼっていた。もっとザイル操作をスピードUPさせる必要があると思った。



2/13 (月) ～ 2/14 (火)　戸隠西岳 P5～P1 周辺
(予定 4+2日)　L. 前原・三木 隆一 (部外者)

2/13 → 三木さんの体調が悪かったため予備日を使ったことにして出発しない。

2/14 → 長野発 ― 品沢高原 ～1.2時間～ P4稜・P5稜間のルンゼと林道の出合い ～
P5稜上を 13:00 頃まで行動 ～ 同ルート下降

・入山する数日前からなぜか暖い日が続き、2/14 日の最高気温はなんと 20℃ ぐらいと発表されていた。にも関わらずに入山した訳だが、ルンゼ内では 5～10分毎に雪崩の轟音が響き渡り、ある小ルンゼでは数えられるだけで8回も同じところが雪崩ていた。ルンゼ内では、同じところであっても何度も雪崩れるものだなあと感心した。雪自体、水を多量に含んで異常に重く、ちょっとしたことですぐ小雪崩が起きた。ザイルを出して尾根を登り、かろうじて P5稜上に出たものの現在地すらよく分からずじまいであった。P5稜上にでるためには、今回は無理であったが、できるだけ P4稜間のルンゼをつめてから取付くべきだと思う。稜上は極めてやせ尾根状のところもあり、かなり手強そうで、稜上の行動距離を長くするほど莫大な時間が費されると思うからである。また撤退するときに登りにつけたトレースがデカいデブリに埋まっているのを見たときには、「やっぱりこんな天気の日に登るものではないなあ。」と思った。なお品沢高原ではある程度まで除雪されており、除雪の末端の所に駐車できる。ここから 1～2時間のラッセルでルンゼと林道の出合いまでたどり着くと思う。残りのコースタイムはさっぱり参考にならないので省略する。快晴の天気の下の撤退は幾分か不思議な気持ちがした。

No.

Date

南アルプス 鳳凰三山～北岳　1996年2月19～24日

メンツ：長澤(L)、松本、小林、花谷、原田

2月19日、松本 ① 3:25！＝御座石鉱泉 ① 6:55

7:30発－旭山 ① 10:35 － 燕頭山 ① 13:05

－2216m（小屋のすぐ手前）Tent Sight ① 16:05

20日、TS1 ① 6:40 － 鳳凰小屋 ① 7:02

（ここから50mほど西へ入るがし）

－輪カンジキをつけて稜線へ ① 10:25 ↩ 観音岳

（空身）

① 11:00 － 分岐 11:30 － 地蔵との分岐 ◎ 12:05／

小林は待機 13:20 ◎ ↩ 地蔵岳 ① 12:45 －

高嶺 ① 15:15 － 白鳳峠 TS2 ① 16:15

21日、TS2 － 早川小屋 ① 9:32 － アサヨ峰 ◎

13:21 － 栗沢山 ◎ 15:35 － 仙水峠 ① 16:50 TS3

22日、TS3 ① 6:25 － 駒津峰 ① 8:21／① 11:40 ↩

甲斐駒 ○ 10:30、小林・原田は仙水峠で待機 －

仙水峠 ① 12:37、13:00発 － 仙水小屋 ① 13:30 －

No.
Date

北沢長衛小屋 ① 14:15 - 北沢峠 ① 14:40 TS4

ここで燃料漏れ(2日分1ℓ損失)→戸台への下山を決定

23日. TS4 ① 6:22、小林は待村 - 大滝頭 ①

8:09 - 小仙丈 ① 9:20 / ① 11:40 ⇄ 仙丈岳 ◎ 風

10:40 - 大滝頭 ① 12:12 - TS4 ① 13:00

24日. 4:30起 ①、松本・花谷は戸台へ先発 6:15 ①

長澤・小林・原田は後発で戸台へ 11:30 ①

- 14:10 戸台・石堤 ① = 松本(北沢峠にいた伊那

ワンゲルの人に車を借りることができ、かなり楽ができた。)

○ 結局、戸台への下山となったが、その敗退理由がせこい。ホワイトガソリンを入れていたペットボトルからもれがあったことである。再度挑むときは新品を用意すべき。また日程とても無理があったのでもっと余裕をもたせるべきだろう。

パーティーを見て体力的に問題はないと感じたが、体調をくずしてしまうともツイ。これはどこへ行くにも言えることなので、健康管理は万全にしたいものだ。冬山の手始めには最適。

2/20～24 前穂北尾根 L山内、前原、

20日 松本5:00＝7:00坂巻7:30○～12:32新村橋○12:45～14:00ボボ山頂◎～1900mT.S 15:20
新村橋四りからひざ上ぐらいのラッセル ボボ山の登りは急だった。

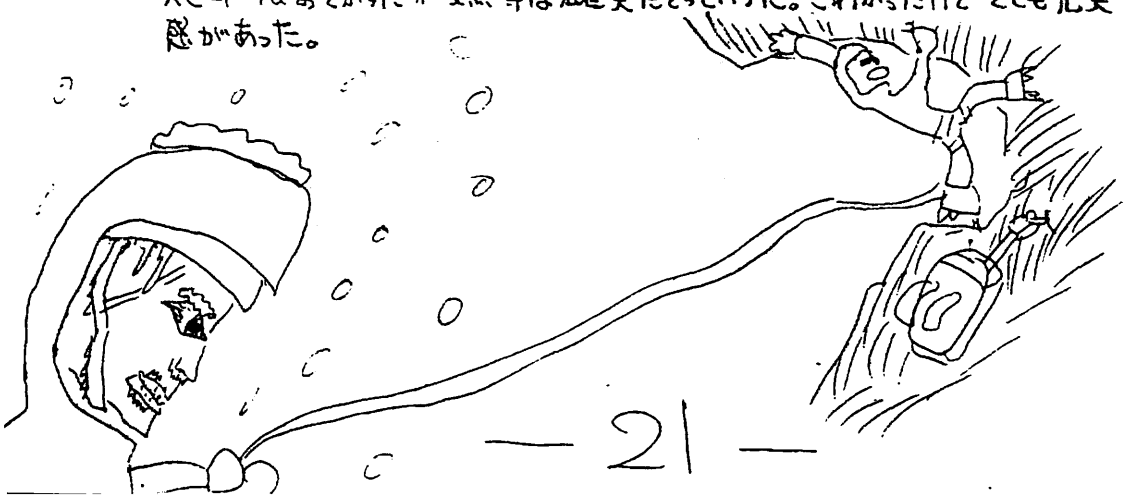
21日 6:2起床～7:45下ラ発① ～11:00前穂八峰11:30⊗＝－スタカット－～14:20 7峰⊗＝
慶応尾根はひざまでのラッセル 八峰直下はなだれ斜面、八峰～7峰ザレだす。

22日 4:40起床～6:47発○～ハピーク奥又側トラバース－1P 10m岩稜－Ⅵ峰手前～～9:00ダヌキ岩テラス～10:00 5.6のコル 10:20～10:07 5峰～12:00 4峰とりつき～14:00 4峰頭～14:30 3.4のコル 雪洞
はれていて穂高連峰がすごかった。トレースがないのでスタカットが多い。

23日 5:00起床～7:00取付⊗～4P(1P L山, 2P前, 3P山, 4P前)～12:53 3峰頭⊗ 13:03発～Ⅱ峰登りスタカット～Ⅱ峰下りけんすい～本峰スタカット～14:58 本峰着⊗～前穂北に雪洞
「こ、これが冬壁かぁ…しぶすぎる」と思った。雪洞はテントとちがって温かい。

24日 5:00起床～6:50発⊗～8:20明神のコル⊗ 8:40～9:30Ⅱ峰登はん①(1P前、2P山)～11:45① Ⅱ峰頭12:20⊙～14:30 5峰台地～岳沢出会16:30～上高地①17:00～坂巻温泉18:52①
明神五峰は奥又側をのぼる3ヶ所こわい。西南稜は途中超やせ尾根になってこわかったのでルンゼをおりた。

感想 登り自体はだいたい良かったと思う。経験のなさから時間がかかることが多かった。ただし、西南稜の下りできれてい尾根をさけるために雪崩をうけるルンゼを下ったのはよい判断だったのか疑問が残った。
（前原）
トレースがなくてルートエ作が楽しめた。毎日が緊張の連続だった。装備の軽量化を徹底したのは良かったが、テントの外張りは必要だと思った。登はんスピードはおそかったが支点等は確実にとっていった。こわかったけどとても充実感があった。



3/2(土)～3/4(月)　戸隠西岳P1尾根
(予定 3+2日)　L. 前原 徹Ⅱ, 山内 哲文Ⅲ, 小林 茂幹Ⅰ, 原田 亮介Ⅰ

3/1　雨のため延期。しかし予備日を使ったことにする。

3/2　松本発～8:25 上楠川着 ◎ 9:17発 ◎～11:05 天狗平 ◎ 12:25発～15:15 ⊕ッ T.S

3/3　5:25起／7:02発 ⊕～8:00 ザイルを出す ◎～13:15 無念の峰手前のピーク～14:45 無念の峰 ○～15:40 蟻の塔渡り終了点 ○～16:10 無念の峰発～17:30 T.S ○

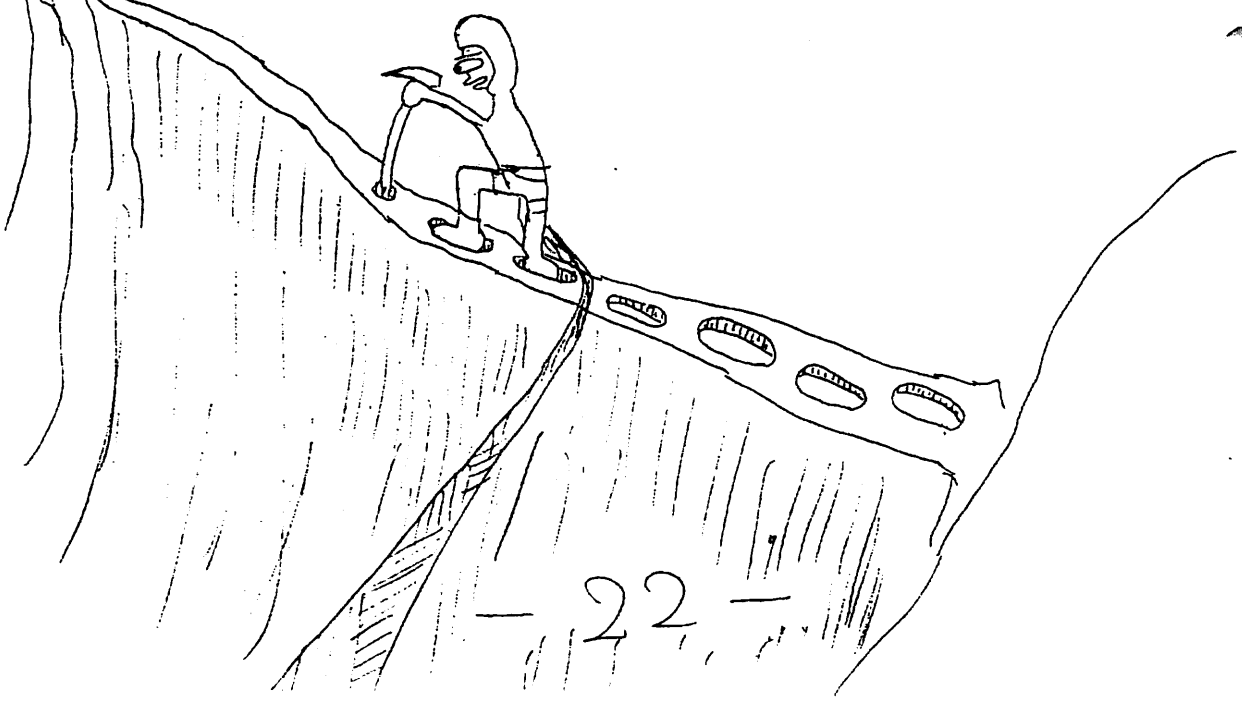
3/4　5:00起／7:02発 ○～9:00 天狗平 ○～10:15 上楠川 ○

・3/1に降った雨が山では雪であったようで、さらに登っている最中も降雪があり、猛ラッセルな山行になった。上楠川あたりでは昨年より雪が少ないように見えたのだが、山に向かうにつれて積雪量が増えていた。天狗平からP1稜上にでるまでルートファインディングが難しく、ホワイトアウトしたらおしまいである。稜上ではとにかく左右に出ている雪ひさしに注意して、はやめにザイルを出した方が良いと思う。今回、昨年来たときよりもかなり雪が多く、キノコ雪だらけで雪ひさしを切り崩して登るような場所があり とても楽しかった。

自分自身、雪の多い雪稜ではプロテクションはほとんど期待できず、どうしても欲しかったらよほど雪を掘らなければならないということ、また、どこでピッチを切るか等、即座に判断できないと時間を浪費してしまい、よけいに雪崩の危険に身をさらすことになるということが理解できた。それと、3/3 アタックからT.Sに帰る際に、もっと懸垂下降で下るようにする慎重さが欲しかったと思う。どこで雪崩てもおかしくない稜上なのだから。

雪壁や雪稜を岩登りと違って軽く見がちであるが、雪壁は雪壁なりに弱点があり、それを見て登らなければ異常な疲労と時間の浪費があり、山にあまり行かない人がけっして簡単に登ることができないということと、山域によって様々な積雪があるということが1年生に理解してもらえれば嬉しく思う。

結果的に敗退したものの、登頂すること以上に学ぶことがあり、充実した山行だった。　(前原)



No.

Date

北アルプス 燕岳　1996年3月4日～6日

メンバー：長澤(L)、堺

3月4日．穂高駅11:26＝宮城(みやしろ)11:41／11:49発①－13:18⊗観音峠－有明荘(国民宿舎)15:40⊗TS1
中房温泉まではもうすぐだが、堺が不調を訴え、幕営
5日．TS1◎6:43－中房温泉7:01◎－第2ベンチ9:50①－合戦小屋①13:15－合戦沢頭⊗14:10尾根上に出る－燕山荘①16:20TS2
6日．TS2○6:22／07:25↩燕岳○6:52－TS2発○8:02－中房温泉○10:00－宮城○14:20

○燕へのピストンは絶好の晴天下で行われた。遠くには富士が浮かんでいた。かくも成功に終わった山行であるが問題がなかったわけではない。堺は体調をくずしての入山だった。山中ではめずらしく終始に帳方へ向かったのでよかったが、こんなことは締だと肝に銘じたい。自分が気を配るべきだった。ともあれ、中房温泉に下ってくると林道の脇に「菩薩の湯」というゴキゲンな温泉が湧いている。湯がげんもちょうどよく来るときは手拭いをもってくるとよいだろう。

いわ岳横岳西面石尊稜及びジョウゴ沢アイスクライミング

'96.3.6 ～ 7　　L4 松本，小林，花谷

3/6　石尊稜登はん

赤岳鉱泉　S　8:40
1P目取付　A　9:40
上部岩壁下　A　2:50
　　S　4:05
時間切れ下山　赤岳鉱泉 6:40

感想：そんなに恐ろしい所もなく楽しかった。できれば完登したかった

反省：こういうルートは2人一組で行くべきだ。時間のロスが大きすぎる。

3/7　ジョウゴ沢でアイスクライミング

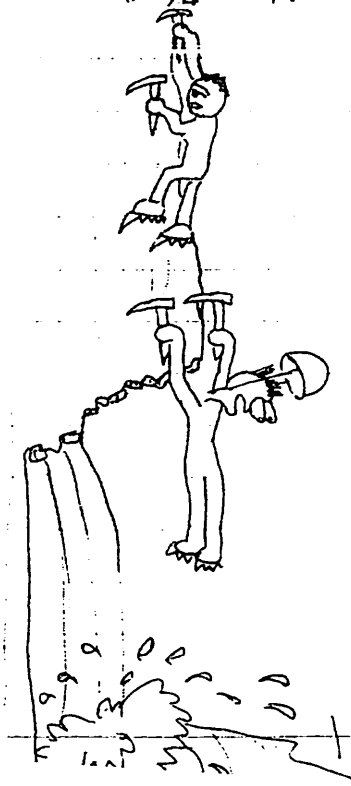
F2　全員登る

大滝までいったが氷の状態がよくなかったので少し遊んで下山。

F2手前の支流に小さな滝があり，トップロープで5～6本登る。

感想：アイスクライミングは楽しい。でも3月では遅すぎる。本シーズンは1年生を連れて行きたいものだ。

反省：アイススクリューを持っていってなかったのであまりできなかった。



3月6日(水)～3月9日(木) 甲斐駒ヶ岳～鋸岳
(予定 4+3日)　　L. 前原 徹(II) 原田 亮介(I) [博多は不参加]

3/6→4:30起床 6:10発○～10:13 刃渡り手前 :40発○ ～12:22 屏風小屋跡◎ :47発 ～14:02 七丈小屋◎

登山道入口からの最初の急登が氷化しており思わずアイゼンを着けてしまったが、少々の氷なら我慢して歩けるくらいの歩行技術が必要なのではないかと反省している。刃渡り以降から多少のラッセルがあったがたくさんのトレースが残っており楽だった。屏風小屋以降はトレースも消えており、鎖場やハシゴ場の急登とラッセルとが苦しかったが、きれいで快適な七丈小屋は何より嬉しかった。

3/7→4:15起床 6:07発◎～8:00八合目◎ ～10:17甲斐駒ヶ岳山頂◎ :48発～途中1P懸垂下降～12:40六合石室◎ ～13:00偵察に出発◎～三ッ頭の最高ピークの手前まで～15:03終了◎

昨日、悪天が心配だったが、強風だけで視界良好だったので出発した。八合目まで、強風下のラッセルは辛かった。八合目以降は、赤石沢側の鎖場は全て雪壁となっていた。山頂からの下りでは偵察の結果のとおり1P懸垂下降があったが支点も良く問題になる部分は無かった。ただ岩が複雑に入りこむ地形なので視界が悪いときには道を見失いやすいと思う。六合石室に到着した後も、翌日少々のホワイトアウトであっても行動できるよう赤テープを付けに偵察に出た。天気は明らかに悪化しており降雪が始まるまで行動した。

3/8→吹雪のため10:00ぐらいまで待期、晴れてきたので11:00発⊕～14:30熊穴沢の頭◎～14:40事故発生

夜から朝にかけての暴風雪も幾分か弱まったので出発した。中ノ越乗越付近にT.Sを進められれば、鋸岳核心部の突破が時間的に楽になるということ、第二高点の尾根は達望すると雪崩そうな急雪壁で朝一番に取付くべきだということ、短い行程で、ラッセル、強風に耐えるトレーニングができるということを考えると時間的に遅かったが妥当な出発判断だったと思う。石室から三ッ頭までは部分的なラッセル、三ッ頭から熊穴沢ノ頭まで猛ラッセルだった。予想通り風の強い山域で雪が飛ばされ、土が見える場所も多かった。

3/9→事故発生以降の行動については後日「事故報告書」にて報告します。

今回の山行では、前回偵察山行を行ったことから、積雪があるとは言っても前進についての見通しがかなり立てやすかった。もちろん積雪や悪天の少ない山域であることも関係するが、やはり偵察山行の意味は大きかったと思う。また、偵察山行によって無雪・有雪の山の姿を見比べることができ、どのような要因のために積雪が形成されるのかと考察できることにも利点があると思う。

最も大きな反省は事故を起こしたことだと考えるべきなのだが、自分としては、甲斐駒八合、九合目間の雪壁でザイルを出さなかったことの方が迂闊だったと思う。どうしようかと迷ったが短時間で抜けられそうだったこと、これと同程度と思われる場所でも雪崩れなかったことからノーザイルで行動しようと結論を出した。しかし、危険度では事故現場を上廻るのではないかと思う。また、迷ったらすぐザイルを出す慎重さが必要だとも思う。結果的に何も起きなかった失敗は反省されにくいが、目立たない失敗を積み重ねた結果が事故を生むのではないだろうか。

(前原)

3月9日～11日（2+1）南八ヶ岳雲稜ルート
L.伊藤、山内

8日 ：松本 ― ：美濃戸口

9日 ：美濃戸口 ― ：美濃戸 ― ：赤岳鉱泉 ― ：大同心雲稜取付 ― ：登りはじめ ― ：ピークル・ここでビバーク

10日 ：ピークル ― ：ドームの角 ― ：下降決定 ― ：赤岳鉱泉 ― ：美濃戸口 ― 松本

はじめ阿弥陀北面稜も計画に入れていたが、1日で雲稜を登りきれるだけの登はんスピードがないので、はじめからビバークを予想して（シュラフももって）雲稜にむかった。前日の降雪で大同心稜がラッセルになって時間と体力を消もうし、取付付近は大同心がそそり立ち威圧感もあり、登りはじめるまでに少々時間がかかった。1ピッチ目はフリーから入ったが、かぶり気味の人工も支点さえしっかりしていれば問題なく、時間はかかったが登れた。2ピッチ目山内リード。ルート図ではトラバースできずにまっすぐにのぼった方がいいと書いてあるのにトラバースでかってしまい。再び積雪の少ないおそろしいフの字をキャメロットをかましながら自分が登るはめになってしまった。その後もルート図では簡単となるがトラバースに手こずりAlした。ピークルの所が少し広くなっており、そこでツェルトをかぶって寝た。つめ襟開けたままだとシュラフに入っても足が冷たかった。翌日山内がAlをリードし、その後のバンドの長いトラバースはなんことなくドームの角に。ドームの登はんは以前学習したAlの前のフリーの所はなんなく越えられたが、右にまわりこんでからのフリーがどうしても登れず、ロワーダウン。山内に登れってもらったが山内も登れず、ピッケル開拓にて敗退。とにかく怖い思いの連続でとうぶん岩はさわりたくなくなってしまった。

3/14～15 南ア鋸岳 熊穴沢～中川乗越 回収山行、L山内、長澤、小林、花谷、原田

14日 戸台えんてい 12:50① ～ 13:40 B.C○（熊穴沢出合）～ ていさつ ～ 14:50 B.C⊙

15日 4:00起床 ～ 5:45 B.C発⊗ ～ 10:30 中川乗越⊗風ハヨシ → ビバーク装備回収 → 11:20 中川乗越⊗ 11:30 ～ 12:40 ザック回収 12:57● ～ 14:20 B.C●
14:45発 ～ 15:30 戸台えんてい● （花谷はB.C待機）

熊穴沢はなだれの危険は少なく1日で回収して下山できた。悪天のため現場検証はほとんどできなかった。前原のザックはルンゼの下の方まで流れてきていたのではやく回収できた。ビバーク地点には前原のたべようとしたお茶づけが凍ったままおきざりにされていた。

て言うぞ。お前が山に行く時、オラ心配
なかったよ。今日は帰ってくるのか、ケガしてない
方なかったよ。気が狂いそうだったよ。夕方、あそこ
んところに夕陽を背中にお前がおりり降りたっ
はほんと嬉しかった。今日も生きて帰ってきてくれた
嬉しかった。それでも俺が一度でもお前に山に行
ことがあるか。山をやめてくれって言ったことがあるか。

SACギャラリー

ページ1. 剣岳山頂（プラスチックの刃が残置されている）

4. この頃で南アを駆け抜けた男の想像図

7. 岩壁登攀雑感・雑景

8. 罰ゲームの図

12. 富士雑景

17. クラック（苦楽？）

18. 雪山風景

21. 冬壁に苦闘の図

22. The 嵯のと渡り

23. 冬の温泉

24. 氷壁登攀

27. 山男

♪ ゆ～き～よ いんわ～よ
わ～れら～が やどりぃ～
おれたっちゃ まちにぃわ
すめな～い かたにぃ～ ♪
（目覚ましソング）

―メモ―

Printed in Japan.

信州大学山岳会
積雪期山行報告書

編集・表紙／小林

発行・印刷／松本謙会